

釧路湿原とその周辺における淡水魚類相について

針 生 勤*

A Study on Freshwater Fish Fauna in Kushiro Mire,
Eastern Hokkaido

Tsutomu HARIU*

ABSTRACT

Freshwater fish fauna in Kushiro mire were investigated in the 25 rivers and 6 lakes and marsh from 1986 to 1996. Collections were carried out at 98 stations in and around the mire. Freshwater fishes of 38 species divided into 13 families were found in Kushiro mire up to this time. Especially, striped pond loach, *Lefua nikkonis* which it's inhabiting was not confirmed up to this in the mire was discovered and it was thought that this species was naturally propagating in the Tsuruno area. Freshwater fish were composed of 6 species of truly freshwater fish, 10 species and 2 types of land locked or residual forms of freshwater fish, 11 species of anadromous fish, a species of catadromous fish, 5 species of amphidromous fish and 5 species of brackish water fish. Biological and geographical components of fish fauna in Kushiro mire included 20 species and 2 types of the Siberian type, 5 species of the northern Pacific Ocean type and 6 species of China and Indo-China type. The geographical distribution of 20 species which their appearance percentage was high, was divided into four patterns, and it was suggested that a difference in those distribution patterns was more caused by the living type than by the biological and geographical element.

1. はじめに

釧路湿原全体の魚類相については針生（1989）の報告があるが、その後の魚類に関する情報は断片的なものであった。釧路湿原が国立公園に指定されて以来、1997年7月で10周年を迎えることになり、今後の湿原保全を考える資料として新知見を加えた魚類情報を提供することは、意義のあることと考えた。また、今日まで、釧路市立博物館主催の釧路湿原や阿寒川水系の魚類調査、環境庁主催の「湿原生態系保全のためのモニタリング手法の確立に関する研究」や「希少野生生物とその生息地としての湿原生態系の保全に関する研究」などに従事してきたことにより、集水域を含めた釧路湿原の魚類の生息状況に関するデータが蓄積され、湿原全体の魚類の分布傾向が把握できるまでになった。そこで、既往の知見を含めながら、釧路湿原の淡水魚類相について取り纏めたので報告する。

2. 調査地域の範囲及び調査方法

(1) 調査地域の範囲

調査地域の範囲は図1に示すように、釧路湿原とその周辺域を含む地域である。また、釧路湿原の南部地域は現在では市街地化あるいは草地化しているが、かつて釧路湿原であったことから、阿寒川や旧釧路川についても

広い意味での釧路湿原と捉えた。

従って、湿原に流入する河川について西側からみていくと、阿寒川（2地点）と阿寒川に合流する大楽毛川（6地点）及びヌカマンベツ川（2地点）である。釧路川河口付近で釧路川に合流する仁々志別川（6地点）、西側から湿原に流入する大島川（2地点）、温根内川（1地点）、北西側から湿原に流入する幌呂川（8地点）、アシベツ川（5地点）、雪裡川（4地点）、雪裡川に合流するモセツリ川（2地点）とシセツリ川（2地点）、北側から湿原に流入するチルワツナイ川（2地点）、チルワツナイ川と合流するキラコタン岬の小河川（2地点）、久著呂川に合流するオンネナイ川（1地点）、久著呂川（9地点）、コッタロ川（4地点）、コッタロ川と合流するコッタロ川支流（2地点）、ヌマオロ川（3地点）及びオソツベツ川（3地点）で、いずれも釧路湿原を貫流し、釧路川と合流する。また、湿原の東側の河川についてみると、シラルトロ沼に流入するシラルトロエトロ川（1地点）と冷泉川（1地点）、塘路湖に流入するアレキナイ川（2地点）、アレキナイ川に合流するモアレキナイ川（1地点）、達古武沼に流入する達古武川（2地点）、旧釧路川（6地点）、旧雪裡川（4地点）及び釧路川の最下流域（5地点）で、調査地点は計88地点を数えた。

湖沼についてみると、釧路湿原の東側周縁に存在するシラルトロ沼、塘路湖及び達古武沼、湿原の北及び中央

* 釧路市立博物館(Kushiro City Museum, Kushiro, Hokkaido 085)

域に存在するアキアジ沼、青沼及び赤沼で、計6地点であった。その他として湿原南部に存在する雪裡樋門(2地点)及び鶴野(1地点)で、計3地点であった。従っ

て、今回、本報告で取り扱った釧路湿原の魚類データはこれら計97地点に、山代(1975)の釧路川のデータを加えた総計98地点から得られたものである。

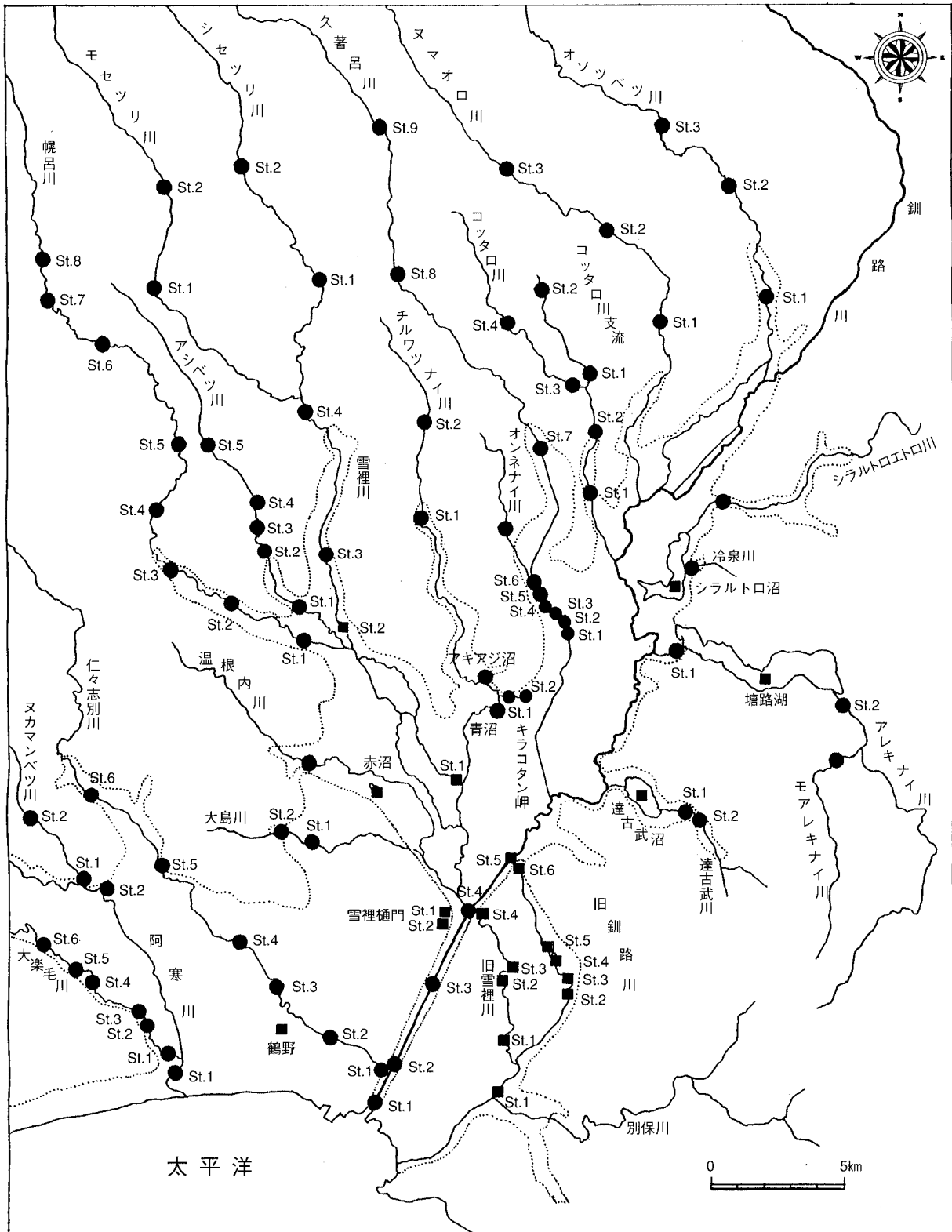


図1. 釧路湿原とその周辺における魚類調査地点。●は著者自身のデータで、■は著者以外のデータであることを示す。

(2) 調査期間及びデータの出典

本報告で取り扱った魚類生息のデータは1986年から1996年までの11年間にわたる調査によるもので、未発表のデータ及び既に発表されたデータを含めて取り纏めたものである。

まず、未発表のデータとして、1986年では3月17日に青沼、3月18日にキラコタン岬 (St. 1) の冬季調査、1987年では4月15日に大島川 (St. 1)、5月9日に大楽毛川 (St. 1、3~6)、5月13日に阿寒川 (St. 1、2) の魚類調査、1989年では3月24日に久著呂川 (St. 1、2)、3月25日に久著呂川 (St. 3~6) の冬季調査、1990年では3月14日にコッタロ川 (St. 2) 及び3月15日にコッタロ川 (St. 1) の冬季調査、1992年では3月18日に青沼、3月19日にアキアジ沼及びキラコタン岬 (St. 2) の冬季調査によって収集されたデータである。1995年では9月2日に大島川 (St. 2)、温根内川、幌呂川 (St. 1)、アシベツ川 (St. 1)、チルワツナイ川 (St. 1)、オンネナイ川、9月4日に雪裡川 (St. 3)、久著呂川 (St. 7)、コッタロ川 (St. 3)、コッタロ川支流 (St. 1)、ヌマオロ川 (St. 1)、オソツベツ川 (St. 1)、シラルトロエトロ川、冷泉川、モアレキナイ川、達古武川 (St. 1)、9月15日にチルワツナイ川 (St. 2)、コッタロ川 (St. 4) 及びコッタロ川支流 (St. 2) の魚類調査によって得られたデータである。1996年では9月16日にチルワツナイ川 (St. 2)、久著呂川 (St. 8、9)、コッタロ川 (St. 4)、コッタロ川支流 (St. 2) 及びヌマオロ川 (St. 2、3)、9月22日に幌呂川 (St. 4、6~8)、アシベツ川 (St. 3)、モセツリ川 (St. 1、2)、シセツリ川 (St. 1、2) 及び雪裡川 (St. 4)、9月23日に幌呂川 (St. 3)、10月8日にオソツベツ川 (St. 2、3)、達古武川 (St. 2) の魚類調査によって得られたデータである。

既往の知見として、河川の魚類調査データは針生 (1989、1993a、1993b) の報告、湖沼の魚類調査データは山代 (1975) の報告に基づいた。また、旧釧路川、旧雪裡川及び雪裡樋門の魚類のデータは釧路開発建設部 (1997) の報告によるものである。

3. 釧路湿原の魚類相

(1) 釧路湿原で確認された淡水魚類

釧路湿原及びその周辺の河川や湖沼には、表1に示すように13科38種が生息することが、今回明らかになった。ここで用いた分類体系は基本的には尼岡ほか (1995) 及び中坊 (1993) に準拠した。以前に釧路湿原の魚種目録として提示した種類は11科34種 (針生、1989) であるので、2科4種がふえたことにな

る。すなわち、タニノボリ科のエゾホトケドジョウ、シラウオ科のシラウオ、ゲンゲ科のナガガジ、ハゼ科のアシシロハゼ及びカレイ科のトウガレイの5種が新たに追加され、反対にサケ科のマスノスケが目録から削除された。この中でシラウオ、ナガガジ、アシシロハゼ及びトウガレイの4種は旧釧路川の下流部の汽水域を含めたことによって得られた新知見である。北海道固有種のエゾホトケドジョウはこれまで湿原からは発見されなかった種類である。ところが、1995年6月には三立技研の高山末吉氏より、エゾホトケドジョウを鶴野地域で採集したという私信を受け、その生息が判明した。その後、1996年の秋に鶴野小学校の石川聖俊君、高田裕介君、工藤周平君並びに田村宜照君 (当時3年生) が学校のグラウンド横の側溝において、本種を約100個体ほど採集したので、鶴野地区一帯で自然繁殖しているものと考えられる。鶴野小学校で採集されたエゾホトケドジョウ13個体について同年11月13日に寄贈を受け、博物館で標本として収蔵した。マスノスケについては近年釧路川の下流部でまったく捕獲されていないことから、魚種リストからははずした。

その他今回の目録には含めていないが、北海道にももとは生息していないアマゴとモツゴが最近記録された。アマゴについては、関根隆氏が1991年11月2日に幌呂川において全長34.2cmの個体を釣獲した。養殖用のヤマベの卵と一緒に持ち込まれた可能性があるが、実際のところ不明である。モツゴについては、1996年6月19日に釧路開発建設部による旧釧路川の魚類調査で本種が1個体捕獲された。いずれも1個体だけの採集なので自然繁殖の可能性は低く、本州からの人為的な移入によるものと考えられる。また、近年ベニザケが釧路川下流部のサケ・マス捕獲場で認められ、1995年には191個体、1996年には328個体が捕獲された。これは昭和62年以来塘路湖において開始された水産庁の放流試験によって、現在釧路川に回帰しているものである。最近では屈斜路湖においても放流試験が行われているが、これが定着すれば将来的に湿原の魚種として加わる可能性もある。

(2) 生活型による区分と地域別の出現特徴

今回生息が確認された38種について、後藤・中野 (1993) 及び塚本 (1994) を参考にし、生活様式の相違によって区分した結果が表2である。また、これらの魚種の地域的な出現の特徴を把握するために、便宜的に5地域に区分し (図2)、地域毎に種類別の出現率を求めた (表2)。南部地域は太平洋と接し海水の出入りのある汽水域を含む地域、東部地域は湿原の3大湖沼を含む地域、西部地域は西あるいは北西側から湿原に流入する河川を含む地域、北部地域は北から湿原に流入する河川を含む地域及び北部丘陵地は標高20m以上の丘陵地を流れる河川を含む地域である。生活型による区分は針生 (1989) がすでに報告しているが、新しい

表1. 釧路湿原及びその周辺の河川や湖沼に生息する淡水魚類

- ヤツメウナギ科 Petromyzontidae
1. カワヤツメ *Lampetra japonica* (Martens)
 2. スナヤツメ *Lethenteron reissneri* (Dybowski)
- ウナギ科 Anguillidae
3. ウナギ *Anguilla japonica* Temminck et Schlegel
- コイ科 Cyprinidae
4. ウグイ *Tribolodon hakonensis* (Günther)
 5. エゾウグイ *Tribolodon ezoe* Okada et Ikeda
 6. マルタ *Tribolodon brandti* (Dybowski)
 7. ヤチウグイ *Moroko percnurus sachalinensis* (Berg)
 8. フナ *Carassius auratus* (Linnaeus)
 9. コイ *Cyprinus carpio* Linnaeus
- ドジョウ科 Cobitidae
10. ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* (Cantor)
- タニノボリ科 Homalopteridae
11. フクドジョウ *Noemacheilus toni* (Dybowski)
 12. エゾホトケドジョウ *Lefua nikkonis* Jordan et Fowler
- キュウリウオ科 Osmeridae
13. キュウリウオ *Osmerus mordax dentex* Steindachner
 14. シシャモ *Spirinchus lanceolatus* (Hikita)
 15. チカ *Hypomesus pretiosus japonicus* (Brevoort)
 16. ワカサギ *Hypomesus nipponensis* McAllister
 17. イシカリワカサギ *Hypomesus olidus* (Dallas)
- シラウオ科 Salangidae
18. シラウオ *Salangichthys microdon* Bleeker
- サケ科 Salmonidae
19. イトウ *Hucho perryi* (Brevoort)
 20. アメマス *Salvelinus leucomaenis* (Pallas)
 - エゾイワナ (アメマスの河川残留型) *Salvelinus leucomaenis* (Pallas)
 21. ニジマス *Oncorhynchus mykiss* (Walbaum)
 22. サケ (シロザケ) *Oncorhynchus keta* (Walbaum)
 23. カラフトマス *Oncorhynchus gorbusha* (Walbaum)
 24. サクラマス *Oncorhynchus masou* (Brevoort)
 - ヤマメ (サクラマスの河川残留型) *Oncorhynchus masou* (Brevoort)
- トゲウオ科 Gasterosteidae
25. イトヨ *Gasterosteus aculeatus* Linnaeus
 26. イバラトミヨ (キタノトミヨ) *Pungitius pungitius* (Linnaeus)
 27. トミヨ *Pungitius pungitius sinensis* (Guichenot)
 28. エゾトミヨ *Pungitius tymensis* (Nikolsky)
- カジカ科 Cottidae
29. ハナカジカ *Cottus nozawae* Snyder
 30. エゾハナカジカ *Cottus amblystomopsis* Schmidt
- ゲンゲ科 Zoarcidae
31. ナガガジ *Zoarces elongatus* Kner
- ハゼ科 Gobiidae
32. ヨシノボリ *Rhinogobius* sp.
 33. スマチチブ *Tridentiger brevispinis* Katsuyama, Arai et Nakamura
 34. ジュズカケハゼ *Chaenogobius laevis* (Steindachner)
 35. ウキゴリ *Chaenogobius urotaenia* (Hilgendorf)
 36. アシシロハゼ *Acanthogobius lactipes* (Hilgendorf)
- カレイ科 Pleuronectidae
37. トウガレイ *Pleuronectes pinnifasciatus* Kner
 38. スマガレイ *Platichthys stellatus* (Pallas)

知見として純淡水魚にエゾホトケドジョウ、両側回遊魚にアシシロハゼ及び周縁性淡水魚にシラウオ、ナガガジ、トウガレイの海産魚がそれぞれ加わった。なお、人為的な分布種コイ、ドジョウ、ニジマス及びウナギ4種は既報（針生、1989）のとおりであるから、釧路湿原の自然分布種は34種である。道内全域の自然分布種は約60種とされるので（後藤・中野、1993）、その半数が湿原に生息していることになる。

人為分布種を含む全種についてみると、純淡水魚は6種、陸封魚は10種2タイプ、遡河回遊魚は11種、降河回遊魚は1種、両側回遊魚は5種及び周縁性淡水魚は5種で、陸封魚が31.6%、遡河回遊魚が28.9%を占めた。ただし、陸封魚のエゾイワナとヤマメはそれぞれアメマスとサクラマスの河川残留型で同一種である。地域的な出現状況を見ると、両側回遊魚と周縁性淡水魚が海水との関わりが深い魚種であるから、南部あるいは東部地域における出現種数が多かった。しかし、遡河回遊魚について南部地域のみ出現種数が多いのは、南部地域以外のデータが不足していることによるものであり、またサケ科のサケ、カラフトマス及びサクラマスは釧路川の河口付近で捕獲され、それ以上ほとんど遡上しないという事情もある。

地域毎の出現率についてみると、純淡水魚は東部地域で出現率が比較的高いのが特徴であるが、フクドジョウは西部と北部地域及び丘陵地で高い出現率を示した。また、フクドジョウは全域出現率でも約30%と高い割合であった。陸封魚ではイバラトミヨが全地域においてかなり高い出現率を示し、南部地域では93%、東部から北部地域まで約63~79%を記録した。エゾトミヨも全地域で高い出現率であるが、特に西部と北部地域でそれぞれ約56%と約74%と比較的高い割合であった。一方、ジュズカケハゼは南部と東部の地域で高い出現率を示した。遡河回遊魚ではウグイが南部と東部地域で、イトヨが南部地域で比較的出现率が高いのが特徴として上げられる。両側回遊魚ではヨシノボリ、ヌマチチブ及びウキゴリが東部地域のみ出現率が高く、50~60%を示した。周縁性淡水魚ではヌマガレイが南部地域で約23%を示し、他の周縁性淡水魚より出現率が高かった。以上より、陸封魚のイバラトミヨとエゾトミヨのトゲウオ科2種が釧路湿原の最優占種であった。

(3) 生物地理学的な特徴

釧路湿原に生息する魚類の生物地理学的な特徴については針生（1993）の報告があるが、今回種類数も増えたので、青柳（1979）、後藤（1982）及び後藤・中野（1993）を参考にし、再度、生物地理学的な要素に基づいた区分を試みた（表3）。シベリア系が20種2タイプ、北太平洋系が5種、シナ・インドシナ系が6種及び固有種が1種であり、生物地理的には混合した魚類相である。しかし、シベリア系が圧倒的に多く全体の約58%を占め、北太平洋系を含めれば、北方系

の魚類がほとんどを占めているのが特徴であった。地域別の出現の特徴をみると、シベリア系魚類はほとんどが南部地域から北部丘陵地まで出現しているが、純淡水魚のエゾホトケドジョウが南部地域のみ、両側回遊魚のエゾハナカジカとウキゴリは南部あるいは東部地域に出現が限定されているのが注目された。一方、北太平洋系魚類はイトヨが全地域に出現するのに対し、他の魚種は南部あるいは東部地域に分布が限られていた。シナ・インドシナ系魚類は北部丘陵地まで分布を広げているものはいないが、ジュズカケハゼは比較的出现域が広がった。

(4) 地理的分布パターンの類型化

地理的な分布の特徴を詳しくみるために、それぞれの魚類が出現した地点をプロットして示したのが図3~11である。ここに掲載したのはシベリア系が6種、北太平洋系とシナ・インドシナ系がそれぞれ2種の計10種である。シベリア系の純淡水魚であるフクドジョウからみていくと、ほとんど湿原の西側の周縁及び丘陵地の河川に分布した（図3）。東側では唯一達古武川のみだけであった。陸封魚のイバラトミヨは湿原全域及びその周辺の丘陵地全域に分布した（図4）。ただ、丘陵地ではフクドジョウほど北寄りではなかった。釧路川や阿寒川の河口の汽水域にも認められた。同じく陸封魚のエゾトミヨも湿原とその周辺全域に分布したが（図5）、イバラトミヨのように汽水域には出現せず、また、標高が30~40mよりの低い丘陵地に分布が限定されていた。陸封魚のハナカジカは湿原の東側にも認められるが、西側の周縁と丘陵地の河川に主に分布した（図6）。遡河

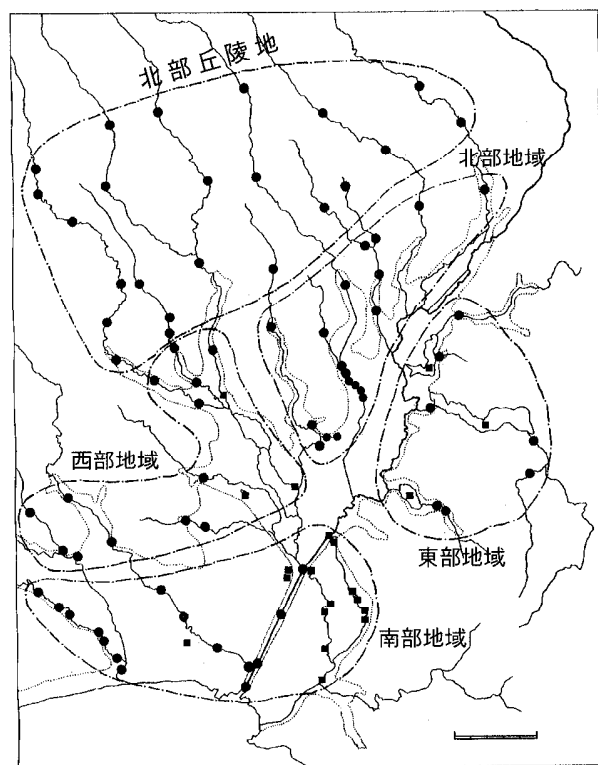


図2. 調査地域の便宜的な区分

表2. 釧路湿原及びその周辺に生息する淡水魚類の生活型による区分と地域別の出現特徴。(*人為分布種を示す)。
出現率(%)は各地域ごとの採集地点数を各地域ごとの調査地点数で割ったものである。

生 活 型		科	種 類	南部 地域 %	東部 地域 %	西部 地域 %	北部 地域 %	北部 丘陵地 %	全域 出現率 %
一生を湿原で生活 (非通し回遊魚)	純淡水魚	コイ科	フナ	16.7	50.0	6.3	—	—	10.20
			コイ*	3.3	30.0	—	—	—	4.08
			ヤチウグイ	6.7	40.0	6.3	10.5	—	9.18
		ドジョウ科	ドジョウ*	13.3	20.0	—	5.3	—	7.14
		タニノボリ科	フクドジョウ	20.0	10.0	31.3	26.3	52.2	29.59
			エゾホトケドジョウ	3.3	—	—	—	—	1.02
	出現種数小計			6	5	3	3	1	
	陸封魚	ヤツメウナギ科	スナヤツメ	6.7	30.0	31.3	36.8	8.7	19.39
		コイ科	エゾウグイ	23.3	30.0	—	—	—	10.20
		キュウリウオ科	イシカリワカサギ	—	10.0	—	—	—	1.02
		サケ科	イトウ	3.3	30.0	—	5.3	4.3	6.12
			エゾイワナ	—	40.0	—	—	8.7	6.12
			ニジマス*	—	—	6.3	—	—	1.02
			ヤマメ	3.3	—	31.3	15.8	34.8	17.35
トゲウオ科		イバラトミヨ	93.3	70.0	62.5	78.9	30.4	68.37	
		トミヨ	16.7	—	18.8	5.3	21.7	14.29	
		エゾトミヨ	43.3	40.0	56.3	73.7	26.1	46.94	
カジカ科	ハナカジカ	3.3	20.0	31.3	26.3	17.1	16.33		
ハゼ科	ジュズカケハゼ	43.3	70.0	12.5	21.1	—	26.53		
出現種数小計			9	9	8	8	8		
湿原と海の両方で生活 (通し回遊魚)	遡河回遊魚	ヤツメウナギ科	カワヤツメ	6.7	—	—	—	—	2.04
		コイ科	ウグイ	53.3	70.0	18.8	26.3	4.3	32.65
			マルタ	13.3	—	—	—	—	4.08
		キュウリウオ科	キュウリウオ	6.7	—	—	—	—	2.04
			シシャモ	3.3	—	—	—	—	1.02
			ワカサギ	33.3	40.0	—	—	—	14.29
		サケ科	アメマス	3.3	30.0	—	—	4.3	5.10
			サケ（シロザケ）	3.3	—	—	—	—	1.02
			カラフトマス	3.3	—	—	—	—	1.02
			サクラマス	3.3	—	—	—	—	1.02
		トゲウオ科	イトヨ	40.0	10.0	25.0	5.3	4.3	18.37
	出現種数小計			11	4	2	2	3	
	降河回遊魚	ウナギ科	ウナギ*	—	20.0	—	—	—	2.04
	出現種数小計			0	1	0	0	0	
両側回遊魚	カジカ科	エゾハナカジカ	10.0	—	—	—	—	4.08	
	ハゼ科	ヨシノボリ	—	50.0	—	5.3	—	6.12	
		ヌマチチブ	—	60.0	—	—	—	6.12	
		ウキゴリ	10.0	50.0	—	—	—	8.16	
		アシシロハゼ	13.3	—	—	—	—	4.08	
出現種数小計			3	3	0	1	0		
下流・河口で生活 (非通し回遊魚)	周縁性淡水魚	キュウリウオ科	チカ	3.3	—	—	—	—	1.02
		シラウオ科	シラウオ	3.3	—	—	—	—	1.02
		ゲンゲ科	ナガガジ	3.3	—	—	—	—	1.02
		カレイ科	トウガレイ	3.3	—	—	—	—	1.02
			ヌマガレイ	23.3	10.0	—	—	—	8.16
	出現種数小計			5	1	0	0	0	
出現種数合計			34	23	13	14	12		
調査地点合計			30	10	16	19	23	98	

回遊魚のウグイは湿原とその周辺を含めた全域に分布しているが(図7)、特に湿原の南部及び東部に認められた。両側回遊魚のウキゴリの分布は特異的で、湿原の東側のみであった(図8)。北太平洋系に属する遡河回遊魚のイトヨは比較的広く分布したが、不連続的な分布様相を呈した(図9)。周縁性淡水魚のヌマガレイの分布はかなり限定されており、湿原の南部及び東部のみに分布した(図10)。シナ・インドシナ系に属する陸封魚のジュズカケハゼは湿原全域に分布するが、西及び北側では湿原周縁にわずかに認められるにすぎず、丘陵地までは分布していなかった(図11)。両側回遊魚のヌマチチブは湿原の東側のみで、特に湖沼とその付近に分布が限られた(図12)。

上記10種の分布のパターンを踏まえて、表2の全域出現率が5%以上を示した20種の分布パターンについて類型化を試みた。ただし、出現率5%以上のイトウ及びアメマスはデータ不足のため類型化から除いた。その結果、四つのパターンに大別された。第1の分布パターンは湿原全域及びその周辺の丘陵地まで含むもので、イバラトミヨ、エゾトミヨ及びイトヨの3種がこれに相当した。第2の分布パターンは湿原内に分布が留まるもので、フナ、ドジョウ、ヤチウグイ及びジュズカケハゼの4種であった。第3の分布パターンは湿原内にもわずかに分布するが、その主体は湿原の西あるいは北西側で、フクドジョウ、スナヤツメ、エゾイワナ、ヤマメ、トミヨ、ハナカジカの6種が入った。第4の分布パターンは湿原の東側に限定された分布で、エゾウグイ、ワカサギ、ヨシノボリ、ヌマチチブ、ウキゴリ及びヌマガレイの6種が含まれた。ただし、主分布域が比較的北寄りの分布であったのがヨシノボリである。

以上のことから分布パターンの相違は、シベリア系魚類が釧路湿原あるいはその周辺を含めた地域に広く分布するという傾向があるが、生物地理的な要素よりも生活型に起因することが示唆された。

表3. 釧路湿原及びその周辺に生息する淡水魚類の生物地理学的要素による区分と地域別の出現特徴

生物地理要素	生活型	種 類	南部地域	東部地域	西部地域	北部地域	北部丘陵地
シベリア系	純淡水魚	ヤチウグイ フクドジョウ エゾホトケドジョウ	●	●	●	●	●
	陸封魚	スナヤツメ エゾウグイ イシカリワカサギ イトウ エゾイワナ ヤマメ イバラトミヨ トミヨ エゾトミヨ ハナカジカ カワヤツメ ウグイ マルタ アメマス サケ カラフトマス サクラマス エゾハナカジカ ウキゴリ	●	●	●	●	●
北太平洋系	遡河回遊魚	キュウリウオ ワカサギ イトヨ チカ ヌマガレイ	●	●	●	●	●
	周縁性淡水魚		●	●	●	●	●
シナ・インドシナ系	純淡水魚 陸封魚 両側回遊魚	フナ ジュズカケハゼ ヨシノボリ ヌマチチブ アシシロハゼ シラウオ	●	●	●	●	●
固有種	遡河回遊魚	シシャモ	●				
不明種	周縁性淡水魚	ナガガジ トウガレイ	●				
移殖種	純淡水魚 陸封魚 降河回遊魚	コイ ドジョウ ニジマス ウナギ	●	●	●	●	
出現種類数			34	23	13	14	12

4. 要約

- (1) 本報告は1986年から1996年までの11年間にわたる魚類調査によって集積されたデータと既往の知見を取り纏めたものである。
- (2) 釧路湿原及びその周辺の河川や湖沼には、13科38種の生息が明らかになった。特に、これまで湿原から認められなかった北海道固有種のエゾホトケドジョウが生息していることが分かり、鶴野地区一帯で自然繁殖しているものと考えられた。
- (3) 生活型による区分では純淡水魚が6種、陸封魚が10種2タイプ、遡河回遊魚が11種、降河回遊魚は1種、両側回遊魚が5種及び周縁性淡水魚が5種であった。旧釧路川の汽水域を含めたことにより、周縁性淡水魚が増加した。陸封魚が全体の31.6%、遡河回遊魚が2

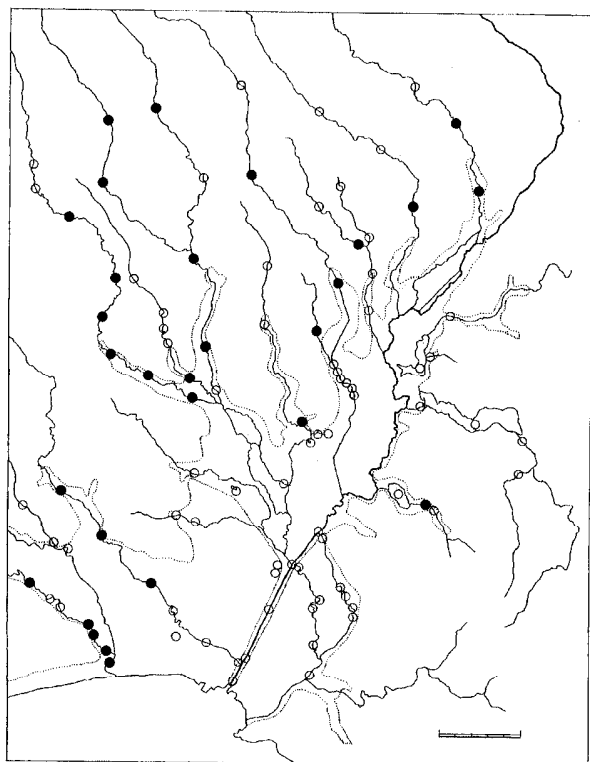


図3. 釧路湿原とその周辺におけるフクジョウの分布 (●)。
○は未採集地点を示す。

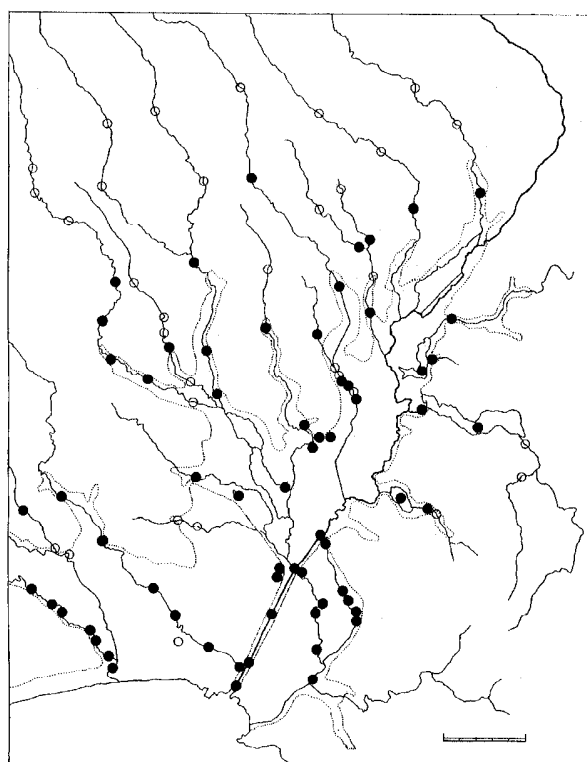


図4. 釧路湿原とその周辺におけるイバトミヨの分布 (●)。
○は未採集地点を示す。

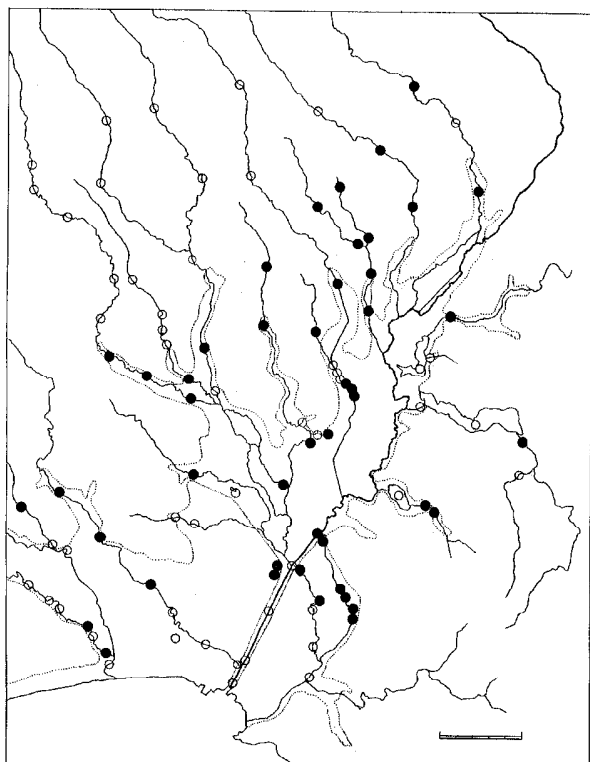


図5. 釧路湿原とその周辺におけるエゾトミヨの分布 (●)。
○は未採集地点を示す。

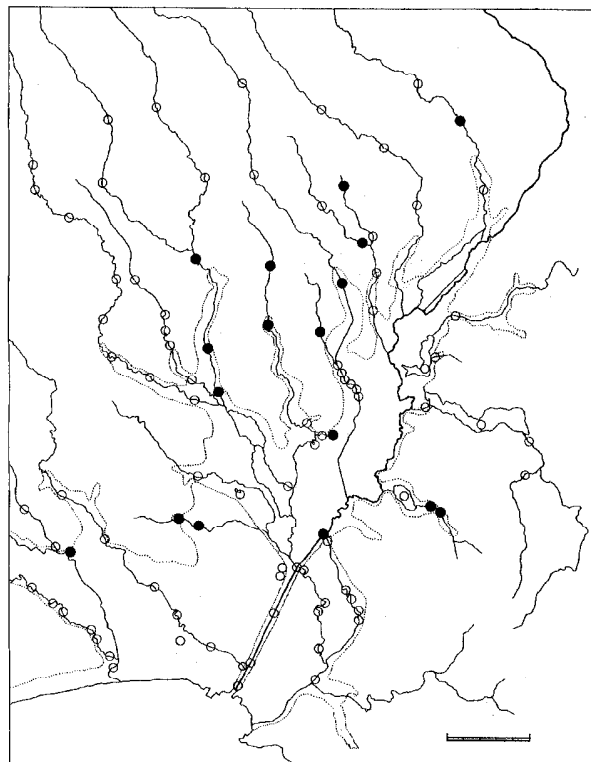


図6. 釧路湿原とその周辺におけるハナカジカの分布 (●)。
○は未採集地点を示す。

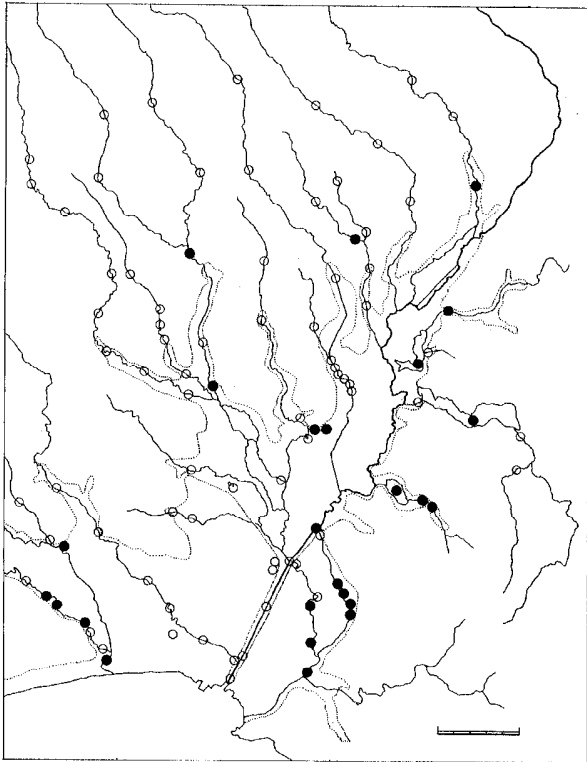


図7. 釧路湿原とその周辺におけるウグイの分布 (●)。
○は未採集地点を示す。

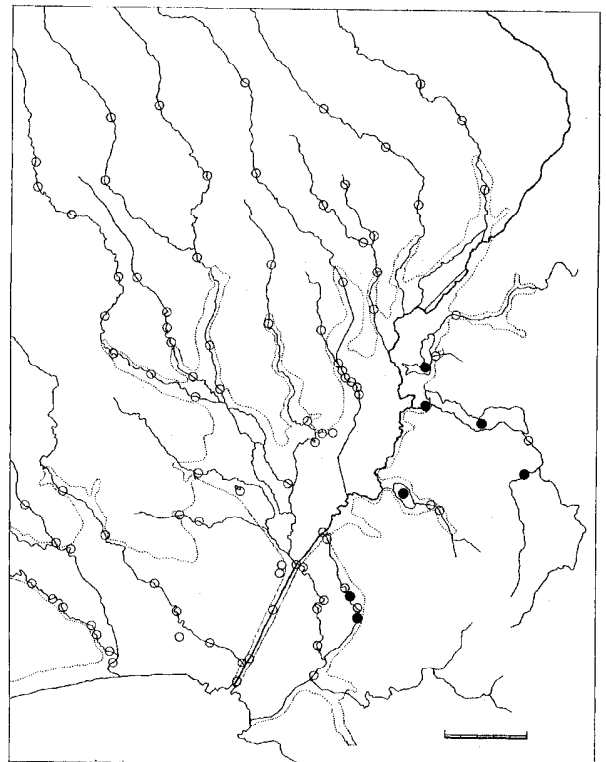


図8. 釧路湿原とその周辺におけるウキゴリの分布 (●)。
○は未採集地点を示す。

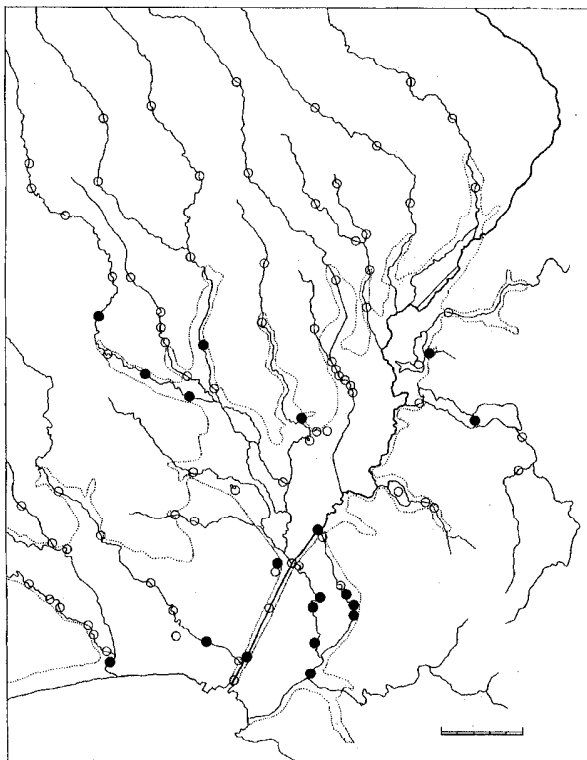


図9. 釧路湿原とその周辺におけるイトヨの分布 (●)。
○は未採集地点を示す。

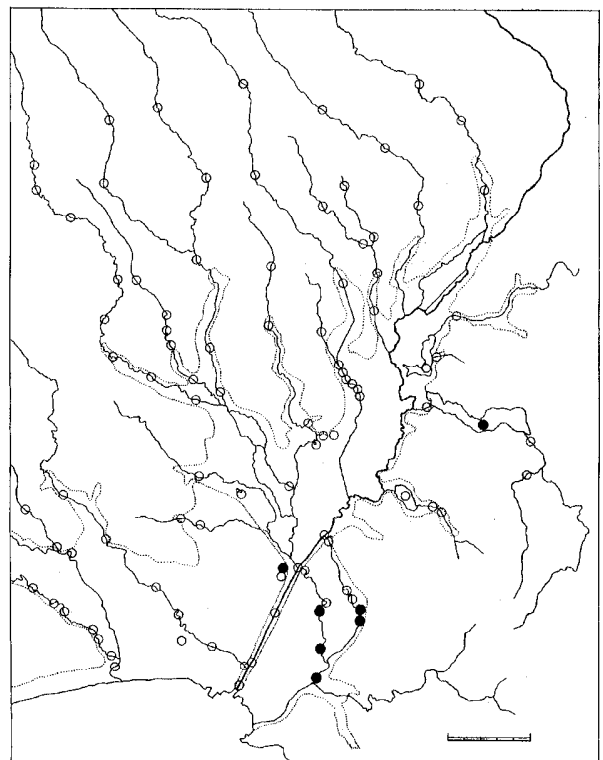


図10. 釧路湿原とその周辺におけるヌマガレイの分布 (●)。
○は未採集地点を示す。

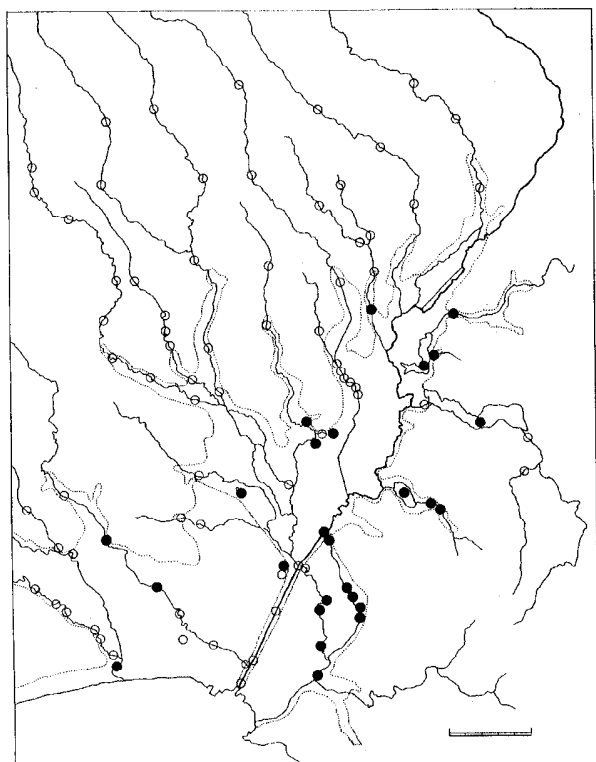


図11. 釧路湿原とその周辺におけるジュズカケハゼの分布 (●)。○は未採集地点を示す。

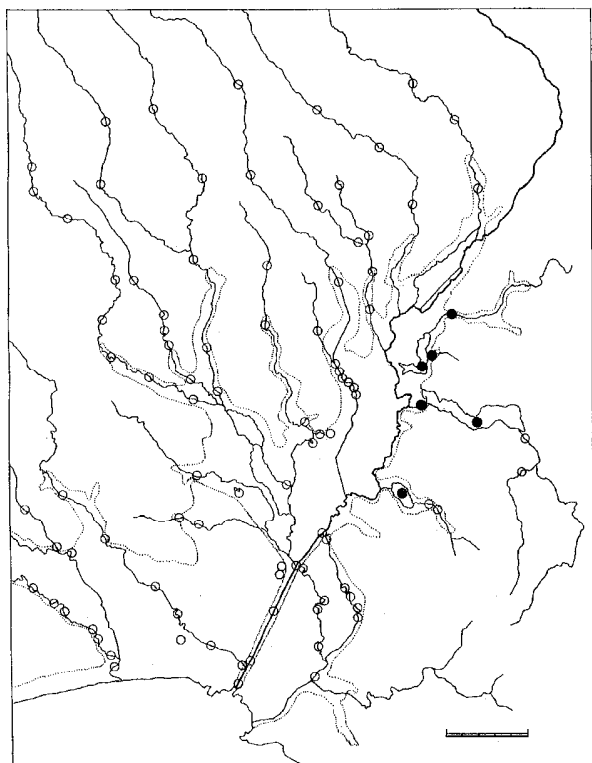


図12. 釧路湿原とその周辺におけるヌマチチブの分布 (●)。○は未採集地点を示す。

8. 9%を占めた。地域毎の出現率についてみると、イバラトミヨとエゾトミヨが全地域で高い出現率を示し、これらトゲウオ科2種が釧路湿原の最優占種であった。(4) 生物地理学的な特徴ではシベリア系魚類が20種2タイプ、北太平洋系魚類が5種及びシナ・インドシナ系魚類が6種であり、生物地理的には混合した魚類相である。しかし、シベリア系が全体の約58%を占め、北太平洋系を含めれば、北方系の魚類が大部分を占めた。(5) 出現率の比較的高い20種の分布パターンについて類型化を試みた。その結果、四つの分布パターンに大別され、それらのパターンの相違は生物地理的な要素よりも生活型に起因することが示唆された。

5. 引用文献

- 尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部 衛 (1995). 北日本魚類大図鑑. 北日本海洋センター、札幌、390pp.
- 青柳兵司 (1979). 日本列島産淡水魚類総説 (復刻版) 財団法人淡水保護協会、大阪、272 (本文) + 17 (索引) + 20 (参考文献) pp.
- 後藤 晃 (1982). 北海道の淡水魚とその起源. 淡水魚、(8) : 19-26.
- 後藤 晃・中野 繁 (1993). 淡水魚類の分布と生態. pp. 209-221. 東 正剛・阿部 永・辻井達一編. 生態学からみた北海道. 北海道図書刊行会、札幌、373pp.
- 針生 勤 (1989). 釧路湿原の河川の魚類相についての予察的研究. 釧路市立博物館紀要、(14) : 1-15.
- 針生 勤 (1993a). 湿原の魚類. pp. 188-207. 湿原生態系保全のためのモニタリング手法の確立に関する研究 (環境庁委託研究). 財団法人前田一歩園財団、阿寒町、439pp.
- 針生 勤 (1993b). 阿寒川水系の魚類. pp. 111-130. 阿寒川水系総合調査報告書、釧路市教育委員会・財団法人前田一歩園財団・阿寒町教育委員会、釧路、198pp.
- 釧路開発建設部 (1997). 魚類調査. pp. I-40~I-49. 釧路湿原の環境調査に関する検討委員会参考資料. 釧路開発建設部、釧路.
- 中坊徹次編 (1993). 日本産魚類検索 - 全種の同定 -. 東海大学出版会、東京、1474pp.
- 塚本勝巳 (1994). 通し回遊魚の起源と回遊メカニズム pp. 1-17. 後藤晃・塚本勝巳・前川光司編. 川と海を回遊する淡水魚. 東海大学出版会、東京、279pp.
- 山代昭三 (1975). 釧路湿原の魚類. pp. 227-249. 釧路湿原総合調査報告書、釧路市立郷土博物館、釧路、340pp.

釧路湿原とその周辺における淡水魚類相について

付表1. 1986～1996年の期間に釧路湿原及びその周辺の河川と湖沼で採集された魚類の個体数。＊は採集個体数が不明なことを示す。

調査場所	調査点	調査対象魚種																								調査結果																	
		カワヤツメ	スナヤツメ	ウナギ	エゾウグイ	マルタ	ヤチウグイ	フナ	コイ	ドジョウ	フクドジョウ	エゾホトケドジョウ	キユウリウオ	シシヤモ	チカ	ワカサギ	イシカリワカサギ	シラウオ	イトウ	アメマス	エゾイワナ	ニジマス	サケ	カラフトマス	サクラマス	ヤマメ	イトヨ	イバラトミヨ	トミヨ	エゾトミヨ	エゾハナカジカ	ハナカジカ	エゾハナカジカ	ナガガジ	ヨシノボリ	ヌマチチブ	ジュズカケハゼ	ウキゴリ	アシシロハゼ	トウガレイ	ヌマガレイ		
青沼							8		2																		15	13									*						
赤沼							9																				21											4					
阿寒川	St. 1	2	1		1					1																	1	4			2						4						
阿寒川	St. 2				19																									1													
アキアジ沼										*																*	*										*						
アシベツ川	St. 1		3							1																1	1		14														
アシベツ川	St. 2																										4	3															
アシベツ川	St. 3		1																																								
アシベツ川	St. 4																																										
アシベツ川	St. 5																																										
アレキナイ川	St. 1														1												11								2	2		1					
アレキナイ川	St. 2																												1						2	2							
大島川	St. 1																												1														
大島川	St. 2		4																						2				17														
オソツベツ川	St. 1		1		1						16															1	1		12					1									
オソツベツ川	St. 2										2															1					1												
オソツベツ川	St. 3																																3										
大楽毛川	St. 1										8																	13	6	1													
大楽毛川	St. 2										5																	4	1														
大楽毛川	St. 3				9						1																	3	1														
大楽毛川	St. 4				3																							7	1														
大楽毛川	St. 5				1																							1															
大楽毛川	St. 6										13														1	9	2																
温根内川							1																				13	58															
オンネナイ川			6								4																16	1	17	9													
キラコタン岬	St. 1				*																						*																
キラコタン岬	St. 2		3	4																					2	42	55	8									13						
釧路川		*	*		*	*		*	*	*	*	*	*	*			5	*		*	*	*	*	*														*			*		
釧路川	St. 1														58												1			2													
釧路川	St. 2				1																					1	12																
釧路川	St. 3				1																						1																
釧路川	St. 4				1																						1																
釧路川	St. 5				26			1							11											15	17	1	1								26						
久著呂川	St. 1																										1	2															
久著呂川	St. 2																											2															
久著呂川	St. 3																											2															
久著呂川	St. 4																										7	1															
久著呂川	St. 5																										2																
久著呂川	St. 6																																										
久著呂川	St. 7		3				2				6																11	20	2														
久著呂川	St. 8										1																1																
久著呂川	St. 9																																										
旧釧路川	St. 1				87	4						6			17												5	78			1	11				7		11	20	30			
旧釧路川	St. 2				13	86	1	3							7												4	57	2						19	5	2			16			
旧釧路川	St. 3				3	1					1																	16	60	5						11					8		
旧釧路川	St. 4				2										6												4	89	2							5	1						
旧釧路川	St. 5				1	56		252	1						6													36	2							26							
旧釧路川	St. 6							3																			2	127	7							32							
旧雪裡川	St. 1				16	3									69	2											8	13								23	12			21			

針生 勤

付表1. (続き)

調査場所	調査地点	カワヤツメ	スナヤツメ	ウナギ	エゾウグイ	マルタ	ヤチウグイ	フナ	コイ	ドジョウ	フクドジョウ	エソホトケドジョウ	キユウリウオ	シシヤモ	ワカサギ	イシカリワカサギ	シラウオ	イトウ	アメマス	エゾイワナ	ニジマス	カラフトマス	サクラマス	ヤマメ	イトヨ	イバラトミヨ	トミヨ	エゾトミヨ	ハナカジカ	エゾハナカジカ	ナガガジ	ヨシノボリ	スマチチブ	ジュズカケハゼ	ウキゴリ	アシシロハゼ	トウガラレイ	ヌマカレイ		
旧雪裡川	St.2			2	3										45										4	36							92	23	32					
旧雪裡川	St.3				2		1			1					2										21	79	5						8							
旧雪裡川	St.4																								6	31														
コッタロ川	St.1																								*	*							*							
コッタロ川	St.2																										1													
コッタロ川	St.3			1							2															33	21	2												
コッタロ川	St.4	1															1	10									5													
コッタロ川支流	St.1	18		1														1							4	23														
コッタロ川支流	St.2																		8								1	4												
シセツリ川	St.1																							2																
シセツリ川	St.2										2													1		1														
シラルトロエトロ川				8																					15	4					19	2	63							
シラルトロ沼		1	61	*	*	1	*								16		*	*	*						28					*	5	7	2							
雪裡川	St.1																								14	3														
雪裡川	St.2	1	2																						2		2													
雪裡川	St.3	1								33														1	1	1	18	2												
雪裡川	St.4			1						1															1	1	13													
雪裡樋門	St.1			24	1		1								37										14	33	17					2						1		
雪裡樋門	St.2						2		1																7	199														
達古武川	St.1	6	9		1					12									1						28	3	6						39							
達古武川	St.2		2																								2	1					3							
達古武沼			*	*	*	*	*	*					*			*	*	*							2					*	17	*								
チルワツナイ川	St.1	2																						5	1	1	21													
チルワツナイ川	St. 2																		1					1			1	3												
鶴野											12																													
塘路湖			*	*	*	*	*	*	*					*	*		*	*	*		*				*	*				*	*	*	*					*		
仁々志別川	St.1																								1															
仁々志別川	St.2																								3	6	1													
仁々志別川	St.3																								1															
仁々志別川	St.4									6															1	3							1							
仁々志別川	St.5									1															2	2							1							
仁々志別川	St.6									7															1	4														
スカマンベツ川	St.1																																							
スカマンベツ川	St.2																							6	1	3														
ヌマオロ川	St.1									30																5	22													
ヌマオロ川	St.2																										1													
ヌマオロ川	St.3																																							
幌呂川	St.1	15								62															6	26	12	56												
幌呂川	St.2									8										1				1	1	4	3	4												
幌呂川	St.3									15																4	5	2												
幌呂川	St.4									15														1	1	1	1													
幌呂川	St.5									5															1	1														
幌呂川	St.6									5																														
幌呂川	St.7																																							
幌呂川	St.8																							1																
モアレキナイ川																																					3			
モセツリ川	St.1									2															3															
モセツリ川	St.2									2															1															
冷泉川							1	1																	40	40						2	34							